

第 22 回
幕別町・忠類村合併協議会
会 議 録

平成 18 年 1 月 20 日

幕別町・忠類村合併協議会

第 2 2 回幕別町・忠類村合併協議会

議事日程

第 2 2 回幕別町・忠類村合併協議会

(平成 1 8 年 1 月 2 0 日 1 6 時 0 0 分 開会)

日程第 1	開会	3 分
日程第 2	会議録署名委員の指名 (諸般の報告)	3 分
日程第 3	報告第 32 号 忠類地域担当助役、固定資産評価審査委員会委員 及び教育委員会委員の選任について	4 分
日程第 4	閉会	16 分

会 議 録

第22回幕別町・忠類村合併協議会

1. 開催年月日 平成18年1月20日
2. 招集の場所 忠類村コミュニティセンター 大ホール
3. 開会 1月20日 16時00分宣告
4. 応集委員 全委員
5. 出席委員 (20名)
会 長 幕別町 岡田和夫
副会長 忠類村 遠藤清一
幕別町 西尾治 本保証喜 瀨瀨太郎 佐々木芳男 多田順一 若原輝男
杉山勝彦 吉村学 宮本真由美
忠類村 邊見敏夫 杉坂達男 南山弘美 齊藤順教 帰山孝夫 村上富二
加藤修治 森徹 菅野由紀子
6. 欠席委員 (2名)
幕別町 瀬上良明
忠類村 小原喜久雄
7. 幹事
幕別町 助役 西尾治 企画室長 佐藤昌親 総務部長 菅好弘
忠類村 助役 邊見敏夫 総務課長 川島廣美 企画課長 水谷幸雄
8. 事務局
事務局長 佐藤昌親 事務局次長 上野寛
総務広報班長 飯田晴義 総務広報班員 和田智旭
計画調整班長 原田雅則 計画調整班員 細澤正典 甲谷英司 西明正博
9. 報告
報告第32号 忠類地域担当助役、固定資産評価審査委員会委員及び教育委員会委員の選任について
10. 会議録署名委員の指名
忠類村 邊見敏夫 杉坂達男
11. 傍聴人 (7人)

議事の経過

(平成18年1月20日 16時00分 開会)

[開会]

議長(岡田和夫) 1月も20日を迎えて、おめでとうという言葉もちょっと言いづらくなりましたけれども、初めてお会いする方もいらっしゃいます。改めまして、皆さん明けましておめでとうございます。

皆さん方には、それぞれご家族共々にお元気に新しい年を迎えられたこととお慶びを申し上げます。そして今日はまた、皆さんお元気なお姿を見せていただきました。心より嬉しく思っている処であります。

いよいよ合併までの残す日が17日というふうになりました。今、地域イントラ整備事業、あるいは合併記念式に向けての準備作業が、急ピッチで進められている処であります。

いずれに致しましても、2月6日の合併に向けて新しい町がスムーズな形でスタートができるよう、皆さんのお力添えをいただく中、万全を期して参りたいというふうに思っている処であります。

それでは、委員の半数以上の出席をいただきましたので、本規約第10条第1項の規定により、ただいまから第22回幕別町・忠類村合併協議会を「開会」致します。

本日は、報告案件として、忠類地域担当助役、固定資産評価審査委員会委員及び教育委員会委員の選任についての報告をさせていただくことと致しておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

[署名委員の指名]

議長(岡田和夫) 日程第2、「会議録署名委員の指名」を行います。

会議運営規程第6条第4項の規定により、忠類村の邊見委員、杉坂委員を指名致します。

[諸般の報告]

議長(岡田和夫) 次に、事務局より、諸般の報告をいたさせます。

事務局長。

事務局長(佐藤昌親) 幕別町の瀬上委員、忠類村の小原委員から、欠席される旨のご連絡をいただいておりますのでご報告致します。

以上でございます。

[報告第32号 忠類地域担当助役、固定資産評価審査委員会委員及び教育委員会委員の選任について]

議長（岡田和夫） 次に、日程第3、報告第32号、「忠類地域担当助役、固定資産評価審査委員会委員及び教育委員会委員の選任について」を議題と致します。

事務局より説明いたさせます。

事務局長。

局長（佐藤昌親） 報告第32号、「忠類地域担当助役、固定資産評価審査委員会委員及び教育委員会委員の選任について」につきまして、ご説明申し上げます。

議案書の1ページをお開きください。

1月17日に開催されました幕別町議会におきまして、忠類担当助役ほか特別職の選任について提案され、提案どおり同意の議決がありましたので、忠類村に関する部分につきまして、ご報告申し上げます。

忠類地域担当助役につきましては、現忠類村長の遠藤清一^{えんどうせいいち}氏であります。

任期は、平成18年2月6日から平成22年2月5日までの4年となります。

次に、固定資産評価審査委員会委員につきましては、忠類村の現委員であります^{あねざきひでお}姉崎秀男氏であります。

任期は、平成18年2月6日から平成21年2月5日までの3年となります。

最後に、教育委員会委員につきましては、^{たきもとようじ}瀧本洋次氏であります。

任期につきましては、辞任された委員の残任期間であります平成18年2月6日から平成20年9月30日までとなります。

以上でございます。

議長（岡田和夫） 報告第32号、「忠類地域担当助役、固定資産評価審査委員会委員及び教育委員会委員の選任について」は、報告のとおりとさせていただきます。

議長（岡田和夫） 本日の案件としては以上ありますけれども、委員の皆さんから何かご意見、ご要望等があればお願いを致します。

菅野委員。

委員（菅野由紀子） 忠類村の菅野でございます。子育て支援策につきまして、要望をさせていただきたいと思います。

出生率が全国的に低下してきておりますが、特に、忠類では、子供の数の減少が^{けんちよ}顕著になっております。

少子化対策や子育て支援策というのは、国を挙げて取り組んでいかなければ、効果の上がるものではないでしょうけれども、忠類村では、地域の実情に応じた独自の支援策が実施されており、子を持つ親からは、「大変有難い」、「助かります」といった声をよく耳にします。

このような中、現在、忠類村で実施されております「乳幼児おむつのごみ処理手

数料の減免」については、新町では残念ながら廃止されることになりました。

この調整方針につきましては、確か1年程前の協議会で、幕別町の宮本委員さんから質問があり、会長は「今後、福祉施策と環境施策の中で検討させていただく。」と、お答えになったと思います。

その後、幕別町議会に対しまして「指定ごみ袋の支給を求める陳情書」が提出され、全会一致で採択されたとお聞きしておりますので、子育ての一助として、陳情の内容ができるだけ早く実現されるよう、要望させていただきます。

議長(岡田和夫) 今、要望をいただきました「乳幼児おむつのごみ処理手数料の減免」については、お話のとおりであります。

忠類村で実施されていたものが、合併時、新町では廃止するという協議会で方向を定めました。更に幕別町議会に陳情書が出され、採択されて今日に至っております。

一度この協議会で決められたものを変更するというのはどうなのか、という批判もあろうかと思っておりますけれども、変更が住民にとって良い方向への変更であれば、それも許されるのかなというふうにも思っております。いずれに致しましても、これから新年度に向けて、私共も予算を始め、色々な内部協議をこれから続けて参りたいと思っておりますので、今いただきました要望については、私共持ち帰りまして、内部で前向きに検討させていただきたいというふうに思っておりますので、この場ではそのような解答でご理解いただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

他にございませんでしょうか。

(なしの声あり)

事務局の方からありませんか。

事務局長。

局長(佐藤昌親) 事務局から合併協議会の歳入歳出決算の関係につきまして、ご説明申し上げます。

本協議会の歳入歳出決算につきましては、規約第19条の規定に基づき、解散の日、即ち2月5日をもって会長が決算することとなっております。従いまして、委員の皆さまには、決算後速やかに決算書を配付させていただきたいと考えておりますので、予めご承知置きいただきたいと思います。

以上でございます。

議長(岡田和夫) それではここで、委員の皆さんから合併協議を振り返っての感想、あるいは新町への思いなどをお話いただければと思います。1人1、2分位でお願いできればというふうに思います。

最初に本保委員、続いて杉坂委員と幕別、忠類交互にお話をお聞かせいただけれ

ばと思いますので、ひとつよろしくお願いを申し上げたいと思います。

それでは、本保委員お願い致します。

委員(本保証喜) それでは最初に私の方から思い等につきまして、お話をさせていただきたいと思います。

大変、長丁場に渡っての協議でございましたが、協議会の正副会長さんを始め、各委員、そして事務局、関係者の皆さん方と共に本当に良かったと、お疲れ様でしたと、こんな心境でございます。

この合併協議を通して、今日まで培われた信頼と尊重というものをベースに、自ら決定した歴史に責任を持つ意味でも、2月6日から新生「幕別町」がスタートする、この町の進むべき道をしっかりと皆さんと確かなものにしていきたいと、こんなふうにも感じている処でございます。

とりわけ、忠類の皆さんには、大変な勇気を持って決断をされました。その思いをしっかりと受け止めさせていただきまして、その精神的負担を少しでも軽減できるように、私共は一生懸命努力をさせていただきたい、こんなふうに思っておりますので、どうぞ今後ともひとつよろしくお願いを申し上げまして、一言でございますけれども、お言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

議長(岡田和夫) ありがとうございます。

次に、杉坂委員、お願い致します。

委員(杉坂達男) 私からは、お礼とこれからの新町に向けての思いを一言申し上げたいと思います。

まずもって、長い間本当に幕別町側の理事者始め議会の皆さん、そして町民の皆さん、本当に深い思いをいただきました。おかげ様で、あたかも対等の立場でこの協議が行われ、そして合併の姿が整いました。

私は何度も村内で申し上げているのですが、この姿を、十勝の合併の手本にしてもらいたい、そんな思いであります。私共が名実共に、自他共に認める幕別町の南玄関としてここに位置し、今まで先輩たちが、あるいは先人の皆さんが^{つちか}培ってここまで築きあげられたこの姿を、更に地域として幕別町の発展のもとで伸ばしていきたい、こういう思いでいっぱいあります。

いずれに致しましても、二十何回でございましたか、この協議会が行われましたが、本当にその一回一回に色々な皆さん方の深い思い、あるいは我々の色々な要望、それが本当に気持ち良く合意できまして、この姿になったことを本当に今、長い間を振り返ってみて、胸の熱くなる思いであります。

どうかこの姿が、本当に将来の日本の行財政改革の姿の手本にもなれるのではないかと考えております。どうか今後ともよろしくお願いを致します。長い間、ありがとうございました。

議長(岡田和夫) ありがとうございます。

次に、瀬瀬委員、お願い致します。

委員（瀬瀬太郎） まず、この幕別町・忠類村合併協議会、更別村が離脱した中の協議会が、確か13回目からで、11月29日に同じこの場で開催した記憶がございます。奇しくも今日、最後の22回幕別町・忠類村合併協議会が、この場で皆さんと最後の仕上げというのですか、会議になったわけですが、本当に会長、副会長を始め、2号委員、また3号委員、4号委員、真摯にこの協議会に当たって、本当に合併が成就されたことを、感深く胸に沁みる次第でございます。

また、個人的に申しますと、齊藤委員長のもとにおった訳でございますが、新町建設計画、この中で今回のスローガンであります「人と大地が躍動し みんなで築く ふれあいの郷土」こういうスローガンを掲げた訳です。その中で前段の「人と大地が躍動し」この文言が偶然であろうか、私の提案した一部が採り上げられたことが、非常にこう印象に残っている訳です。

こんなことも含めて、本当に今日まで長い間、大人の協議として最後まで皆、真剣に考えてここまで来たということ、本当に感謝申し上げる処であります。

今後、あと1年3カ月有余、皆さんとまた議員の皆さんと一生懸命やらなければならない立場にあります。何卒よろしくお願い致しまして、私の挨拶と代えます。どうもありがとうございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございました。

次に、忠類村南山委員さん、お願い致します。

委員（南山弘美） ご挨拶申し上げます。忠類村は管内一小さいという村で、この合併問題が出た時、何とか自立できないものかと、このようなことで平成13年にそうした会を持った訳ですけれども、協議を重ねるにつれて非常に難しいという財政シミュレーション等を見まして、結論に至りました。そうした中で、大きな山が三つ、四つあった訳でございますが、反省を含めてちょっと申し上げてみたいとこのように考えます。

幸いにしまして、非常に管内でも大きな人口を抱えました幕別さんから声がかかりまして、私たちも非常に距離的には遠いと、だけれどもこのことは地域を残す上、非常に有利な条件ではないかということで、喜んでこの問題につきましては賛同して参りました。

そうした中で、法定協ができて、2年数カ月経った訳でございますけれども、第一の山は更別さんが抜けたと、これは大きな驚きでございました。この1町2村の枠組みというのは非常に大きな力を持っているなど、こう考えまして積極的に進めてきた処の離脱でございまして、これは大きな驚きでございました。

二番目と致しまして、この問題につきまして、うちの村長は「一つでも欠けたらこれは白紙に戻す」ということは、議会でも答弁した処でございます。ところがこの今回の合併は、長かったか短かったかこの期間が、私は「短かったな」このよう

に考えます。これは村長も非常に住民投票すべきだという基本的な考えを持ちながら、時間が無かったということで、非常に苦渋の決断をされた訳でございます。これが大きな山ではなかったかなと、このように考える訳でございます。

そうしたことも考えまして、ことわざにもありますように、「創業は易く守成は難し」という言葉がございますけれども、今後私も精進しながら新しい町づくりに皆さんの力を借りながら頑張りたいとこのように考えておりますので、ひとつよろしくお願いを申し上げます次第でございます。どうも皆さんご苦労様ございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

次に、幕別町佐々木委員さん、お願い致します。

委員（佐々木芳男） 皆さん、大変長い間ご苦労様でした。岡田町長、そして遠藤村長、更にはそれぞれの議長、特に幕別の本保護議長も多くの力を色々な面で苦労されたなということを直に感じておりますし、杉坂議長も住民の中に立ってご苦労されたということをしみじみと聞かされ、感じておった次第です。

私も法定協第1回目から参加させていただきました。この事業は本当に、この忠類・幕別にとって歴史に残る大きな事業であるということに心を秘めて、毎回参加させていただきました。そんな中で今でも鮮明に覚えておりますし、忘れられないことがございます。

一昨年11月29日、第13回協議会において、町の合併の方式、町の名称をどうするかということについて、遠藤村長から忌憚のない発言がございました。編入という英断をされたことについて、非常に強く心を打たれました。55年間の分村から営々と築いてきた、この忠類の歴史にピリオドを打つ時に、大きな恐らく決断があったのだというふうに感慨無量なものがございました。

更には杉坂議長からは、幕別町の名称を冠とするという言葉がいただきました。その中に止若やむわつかを通して帯広に通った幕別町だというような歴史的な言葉をいただきながら、本当に忠類の皆さんの心が伝わってきた思いが致します。今後は、新「幕別町」の南玄関としての忠類村が、より一層共に繁栄することを期待し、祈念をしながら、皆さんと共に勉強させていただいたことに感謝を申し上げてお礼の言葉と致します。ありがとうございます。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

次に、齊藤委員さん、お願い致します。

委員（齊藤順教） 今日をもって終わるということで、合併という大きな山を越えました。そういうことの中で、忠類村から村という字が無くなる、このことについて寂しく思っております。これはいくらそうなると言ってみても、やはり村が無くなるということは、本当にこれは住民の皆寂しいことだろうと、こんなふうに思っております。

いずれにしても、私が法定協の委員に選ばれまして、所謂、新町建設計画の委員長をおおせつかりまして、幕別においては杉山さんが副委員長、瀨瀬合併委員長さんに新町建設計画小委員会の方に入っていたと、先ほど瀨瀬さんが言われたように、スローガンも新町建設計画小委員会で作りました。立派なものがあったなとこんなふうに思っております。

これは3町村の枠組みの中でありまして、これがずっと続くというふうに思っておりましたけれども、更別が抜けたということ、実際、新聞等においては、村長も議会も本当にぶれないで幕別町との1対1の合併に向かったというふうに評価はしていただいておりますけれども、村長は別として、更別が抜けた時に私の合併特別委員会において、3町村の枠組みが崩れた場合にはどうするのだと、こういう委員からの質問の折りに、胸を張って「白紙に戻す」と私は言ったのです。その時にまさか更別が抜けるというような形になるとは思ってもみませんでしたから、そういう言葉を吐きました。が、しかし更別が現実には抜けて、村長が幕別と1対1でやるという時には、実は私は随分ぶれました。これはもう幕別と1対1でいったら良いのかどうかと、杉坂議長とも激論を交わしながら、色々この1対1の中の論議をした中で、杉坂議長がこういう言葉を私に申し上げました。「委員長、我々村議会議員でも、政治家の端くれだぞ。」と、「事務屋じゃないぞ、政治家の端くれだ。」と。ここで、所謂、政治家の端くれとして「委員長、ここでどうするんだ。」ということでお互いに決断をしなければならないではないかと、こういう話がありました。その時に私はそれで「よし、それでは幕別と1対1でいくか。」という実は決断を致しました。で、半ば特別委員会においては強引とも思えるようなことで、委員から色々な問題が出た時に、時間が無いから省くとかではなくて、とにかく幕別と1対1でなければうちの村はどうにもならないのだ、という手法で頑張った結果が今日の姿になったと、私は思っているのであります。

そういうことの中で、本当に先ほども言ったように、実際はぶれながら、色々また議長とも論議を交わしながら、激論を交わしながらのこの幕別との1対1の編入合併であったということを、皆さん方に私はお伝えしておきたいなと、こんなことを思ったのであります。と申しますのは、やはりそういう困難を乗り越えて来たからこそ現在の姿があり、また新しい新生「幕別町」、新町において色々な困難な問題が立ち向かって、お互いに皆で協力し、英知を出していけば乗り越えられるのかなと、こんなことで今前向きに考えている処でありますので、どうかひとつ忠類地区のことにおいて、また幕別の法定協の委員に携わった皆さん方の、またご協力やらご理解をこれからも賜りたいと、こんな思いでいっぱいあります。

最後に一言付け加えますが、私がこの幕別町との1対1に決断したのは、先ほど言った杉坂議長の「政治家の端くれである。」という言葉と、それから岡田町長が一番先に25,000の人口のある町長が、我が1,850の人口の少ない村にわざわざおい

でくださって、そして遠藤村長に向かって「お互いにまちづくりのテーブルにつかないか。」というふうに申してきたということが、私は常に頭から離れなかったのであります。

そういうことから、この合併というものは、所謂、私たちの努力もありましたけれども、最終的には岡田町長とうちの遠藤村長の英断と二つのことであつたのではないかと、こんな思いで今いっばいであります。

どうかひとつ、これからも岡田町長におかれましては、1,800の人口が増えた訳でありますから、どうかひとつ忠類地区のことも視野に入れながら、調整をお願いしたいと、お願いを致しまして私の感想と致します。皆さん、どうもありがとうございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございました。

次に、多田委員さん、お願い致します。

委員（多田順一） 私ごとき者がです、この法定協議会に参加させていただき、この協議会が合併に今日来たということは、非常に心に残る人生における1ページかと思っています。

町におきまして、町民検討委員会という集まりがあつた時に、初めて出てきました。その時、何が縁であつたのか、私が代表ということで一言挨拶すれということが事の始まりでありました。

時、各町村、日本中は、合併ということに沸いていたのではないかと思います。私もしがな教育者の一人として今悩んでいることは、人口が減るという中であつて学校が必要なくなってくるという段階のことが常に頭にありました。町、村、市にしても、同じくそういうような時代が来たのだなと、やはりこれは絶対に成功させなければいけないという構えで、町民検討会議もそういう方向で仕切ってきた訳でございます。色々な意見がありました。「どこではどうだ、ここではどうだと言うけれど、幕別の将来を考えた時に皆さんどうなのですか」というようなことで、やはり合併ありきというような町民の意見を集約できましたので、その旨お伝えし、更にこの法定協に私が代表として送られたというようなことでもございました。

議員の皆さん、村長さん、町長さん、それから役場職員の皆さん方の素晴らしいリーダーシップによりまして、私共はそれに乗って行くことができたのではないかと、いうふうに考えています。いずれにしろ、二つの町が一つになるということは、お互いの信頼関係が無ければこれは絶対にできないというふうに私は思っています。この信頼を基に新生「幕別町」が、素晴らしい南の入り口忠類から始まって私共の町へ風が抜けていくような立派なまちづくりに更に皆さんと力を合わせてやって行きたいと、機会がありましたらまた私共お手伝いできることがありましたら、使っていただければというふうに考えております。

忠類の皆様、本当にお世話になりました。温かい皆さんの気持ちを忘れることな

く、これから残されたまちづくりに、少しでも力になればというふうに考えております。本当にどうもありがとうございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

次に、帰山委員さん、お願い致します。

委員（帰山孝夫） 忠類としてこの問題に係わりあった時から、作り出す苦しみと言いますか、生み出す悩みと言いますか、こういったことを考えてこれは大変なことだというような感覚で実は臨んだ訳でありますけれども、幕別町側さんの包容力のある温かい配慮が随時、随所に現れまして、今日に至った、こういうようなことについて本当に感謝を申し上げます。

私個人としては、昭和24年のこの村の分村直後にこの役場に奉職^{ほうしよく}致しまして、最初の仕事が開村祝賀行事だった、このようなことでございます。その後、このかた40年、この村と共に歩んで参りました。その私が昨年^{りっかいしゃ}の2月25日でしたか、合併調印式の立会者として村が廃止されるという書類に署名した訳ですけれども、実は手が震えて書けなかったというようなことを、今思い出しております。

私は、最悪の事態を回避するための最善の方法、それが合併だと、こういったことを信じて言動共にして参りました。今想起^{そうき}しますのは、この合併必ずしも賛成でない方もおられた訳でありまして、そういった方々との融和をこれからどんな手段を通じてもしなければならぬ、まさにルビコンを渡るわけですから、賛成者だけ渡って、あとの人が渡らないというようなことではない訳ですので、これからの余生をこの地域の融和と言いますか、一体化、それが新生「幕別町」の発展に繋がるのだと、このようなことを考えております。本当に本日までのご配慮について、感謝申し上げます。ありがとうございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

次に、幕別の若原委員さん、お願い致します。

委員（若原輝男） 私は幕別町合併検討会議の一員として、隣にいらっしゃる多田さんと一緒に合併問題に取り組みさせていただきました。それ以後、このような合併協議委員会の協議委員として、また参画をさせていただいた処でございます。

今日まで、岡田町長、遠藤村長さん、それから議会の皆さん、それから両町村の職員の皆さんの絶大なご努力によって、間近に合併を迎えることができた訳であります。

私の接する町民の方々の話の中からですね、私たちの町は何も変わらないのだから良いのだけれども、忠類の皆さんはどんな思いでこの合併を迎えるのかなということ、心配している人がたくさんおります。嘗々と築かれた村が、無くなる訳です。形の上で無くなる訳です。ですけれども、合併をしてこれからどうやって新しいまちづくりをしていくかということに、それぞれの私の接する中でも色々と聞かせられた処であります。何と云っても、悔しい思いの村民の皆さんもたくさんおら

れるのではないのかな。先ほど齊藤委員長さんから、決して平坦ではなかったのだというお話がありましたので、私共現在の幕別町民と致しましては、皆様にどのように親しんでいただき、これからのまちづくりをしていくかということをお互いに協力しあって行くべきだなと思いながら、また接する皆さんの中でも、ぜひ協力をして下さいということをお願いしながら、今日まで進んできました。

2月6日の合併の日を目前に致しまして、皆さまのご苦勞、そして私もその一員として協力をさせていただきましたことに感謝をしながら、一言ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

次に、村上委員さん、お願い致します。

委員（村上富二） 色々な方から思っている思いをずっと私聞いておりまして、皆さんの心の中はやっぱり大変だったのだなということ、今更ながら感じていた処でございます。

本当に合併というのは誰もしたくありません。今でもしないで済むのであればしたくないのですけれども、もう如何せん財政的にも人口的にも非常に少ない所でございますから、もうこれは避けて通れません。そういう中で、忠類村が合併を決断した訳ですから、私共もそれに向かって努力をして今日を迎えた訳でございます。

色々な思いは、皆さんとそう変わりません。そんなことですが、私が特に合併の事務方を担当されました担当の職員の方ですね、もう本当に2年間に渡って非常に膨大な書類を精査されて、それを色々と検討して議案として出されて来ると、私は委員ですが、もうここに出してきたものについては、非常に問題が無い訳ですから、「異議なし」ということだけで通って行く訳ですね。だけれども、その「異議なし」の言葉の裏にですね、本当に苦澁をもって決められたことや色々なことがあったのだらうと思うのです。そういうようなことを、ひとつこれからも忘れないで頑張っていかなければならないのかなと思うことでございます。

もう一つ申し上げたいことは、私共の議員の方は1年なんぼか残る訳ですね。その骨子は今日でもう大体決まった訳ですが、その決まった骨子が具体的にどうされていくのかということが、忠類村の者は一番心配している訳ですよ。そういうことについて、議員の人たちもきっと責任を感じていると思うのです。私共は議員ではありませんが、法定協の一員として席を置かせてもらった者としてはですね、議員さんが一生懸命やっていかれるように、陰ながらひとつ援助して、本当に合併して良かったなとそういうみんなの村民の意向がそうなるように、努力して行って欲しいものだなと思っております。

今日まで本当に長いこと皆さんにお世話になりました。今後ともよろしく願いします。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

次に、杉山委員さん、お願い致します。

委員（杉山勝彦） 平成18年、2006年というのは、お互いの幕別・忠類の方にとって非常にこう歴史的だと思っておりますけれども、今、農業がですね、非常にこの平成18年が大きな節目を迎えておりまして、特に平成19年から品目横断^{ひんもくおうだん}ということですね、農政が一大転換期を迎えることと併せまして、WTOとの決着が今年4月か5月に決着が付くだろうと、非常に両町村の基幹産業農業でございますので、このいき方によっては、町の締めを制すかというくらいそういう大きな年でございまして、そういう意味で、両方ですね、非常に危惧している処でございますけれども、特にこれからですね、基幹産業農業、北海道では1町村に3農協というのはなかなか無いので、これがどんな形になるか、できればですね、3農協でお互いに協力しながら、岡田町長のリーダーシップのもと、何とか基幹産業農業を育てて行きたいということと、それから合併は2月6日にできる訳でございますけれども、問題はその後だと思っております。で、やはり色々なことがたくさんあると思っておりますけれども、人事のことだとか色々なことがあると思っておりますけれども、やはりそれぞれ2月6日以降ですね、それぞれの今日ここに参加された方含めまして、皆さんがですね、まちづくりの為にそれぞれ自分の立場、立場ですね、努力するということが一番大事だということと、お約束できるのは、年に1回位はこの温泉に入りに来たいということをお皆さんに報告しまして、私の言葉とします。どうもありがとうございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

次に、忠類村の加藤委員さん、お願い致します。

委員（加藤修治） 忠類村が無くなるという非常に複雑な思いで、合併協議会に今日まで参加をさせていただきました。でも、多くの協議委員の皆様方とお知り合いになり、色々な意味で大変意義深く光栄に思っております。本当にありがとうございました。

合併後は、岡田町長を先頭にですね、町職員の皆様方、そして本保護長率いる町議会の皆様方に、忠類地区に特別のご理解とご支援を賜りたく、お願いをしたいと思います。

私も幕別町の町民として、また忠類地域の住民として、また経済団体の一員として、この忠類村が何とか活性化でき、若者が安心して住めるような、そういう地域に今後も一生懸命取り組みたいと思っておりますので、何卒ご支援のほどよろしくお願ひしたいと思います。本当にありがとうございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

次に、幕別町吉村委員さん、お願い致します。

委員（吉村 学） 一言感想を申し上げさせていただきたいと思っております。

この2年間、十勝で最初となる合併協議会に、多くの皆様方と係わる事ができてまして、私にとって本当に大きな経験となり、感謝をしている処でございます。本

当の意味で、ここからが私たちの仕事と責任が始まるのかな、というふうに考えております。

今後は、自分が係わっております、文化協会ですとか、商工会あるいは町民芸術劇場というような場におきまして、一町民としてこの合併が少しでも良かったかなというふうに思われるように、更に力を注いで見守って行きたいなというふうに思っております。今後とも、よろしくお願い致します。ありがとうございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございました。

次に、忠類村森委員、お願い致します。

委員（森 徹） まずもって、皆さんのお話を聞いている中で、一言どういう表現をしたら今の自分の気持ちが表せるのかなというふうに考えました処、まず、言葉はちょっと悪いのですけれども「どうだ。」と十勝に住んでいる皆様に言いたいというふうに思いました。と言いますのも、合併協議、任意協含めまして数々色々な地域で協議会が立ち上がった訳ですけれども、最後に残ったのはこの合併協議会だけありますし、幕別町と忠類村の人口差を考えましても、明らかに忠類が吸収されるというふうに、村民の皆は今も思っているかも知りません。

そんな中で合併協議が成功したのも、幕別町の委員さんを始めと致しまして、幕別町の町民の皆様が忠類村のことを特に考えていただいて、特段のご配慮をいただいたということが、まずこの合併がスムーズに行ったことだと本当に考えています。

今後忠類の地域の皆がどのようにやっていけば本当に合併が良かったのだと、本当に合併して良かったというふうに考えられるかを、今も今後とも考えていかなければならないというふうに思っております。

幕別の委員さんを始め、幕別町の職員の皆様、事務方の事務局の皆様も本当にこの短い期間の中でこれだけの議案を作るということは、本当に休日を返上しているという話も多々聞いている中で、本当に大変だったというふうに思います。本当にありがとうございました。

今後、まだ私が30歳で若いので、これから「合併協議に携わったお前のせいでこれだけ寂れた。」と、「これだけ面白くない地域になった。」と後ろ指さされないように、合併は通過点で、今後新「幕別町」が栄えて楽しく皆が住み良い町になれるように、一生懸命努力していきたいというふうに思いますので、今後とも皆様のご配慮をよろしくお願い致します。ありがとうございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございました。

次に、宮本委員さん、お願い致します。

委員（宮本真由美） 無事、会議が終了しますことを、心から嬉しく思います。

新しく生まれる町に、人や自然、物に対する愛が溢れ、住んでいる住民の方たちが幸せに過ごせますよう、心よりお祈り申し上げますとともに、忠類地区の方々に対して、いつまでも思いやりの気持ちを忘れないで対していただくようお願い致

します。

また、この大事な協議会に、席を連ねさせていただきまして、誠にありがとうございます存じます。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

次に、菅野委員さん、お願い致します。

委員（菅野由紀子） この2年間は、長いようで短く、あっという間に合併の日を迎えようとしています。この村で生まれ育った者ではありませんが、やはり住み慣れた村の名が無くなるというのは寂しいというのが本音でございます。

私にとって、この協議会は合併して良かったと思えるまちづくりを、国や行政に求めるだけでなく、私たち住民自ら心を合わせて、これからの厳しい時代に立ち向かうため、努力しなくてはいけないということに目覚めさせてくれる機会でもありました。

移行作業等色々大変でしょうが、これからが本番です。後悔の無いまちづくりを願っております。2年間、色々勉強させていただき、本当にありがとうございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

それでは、両町村の助役をお願い致します。

西尾委員さん、お願い致します。

委員（西尾 治） 私はこの法定協の委員という立場と、それから幹事会の一員という両面を持ってこの協議に当たらせていただきました。

委員会、法定協の中身につきましては、委員の皆さんから色々お話をいただいておりますので、私の方からは特に忠類地区の職員の皆さん、法定協へ2年半一生懸命通われまして、協議を熱心にやっていたいただきました。本当にそのことが今日を迎える結果になったのかなと、私の方からも感謝したいなと、そんな思いでいっぱいであります。

お話されますように、これからのまちづくり、2月6日以降にあるのだろうというふうに思います。しっかりそれぞれの村民、町民の思いを受け止めて、町長を支えて、ぜひとも十勝皆から^{うらや}羨まれるような、そんな良い町を皆さんと一緒に作って行きたい、改めて今、思っている処であります。

これから色々な面でお世話になると思います。これからもどうぞご指導のほどよろしくお願いを申し上げまして、私の方から感謝の言葉とさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

次に、忠類村邊見委員、お願い致します。

委員（邊見敏夫） 何か一言申す、ということでございます。本当は長い時間しゃべりたいのです。ですけれども、もう時間もございませぬし、この後の行事が控えて

いるようですので、簡単にですね、一言私から感想を述べさせていただきたいと思
います。

過日、会長であります岡田町長さんがですね、挨拶の中で、合併の準備はもう
大体終わったと、本当の合併のスタートはこれからだということを話されたよう
な記憶がございます。今でもその言葉が心の中に焼き付いている訳でございます。

私の立場からしますとですね、この協議会を通じまして、2年間余りですけれど
も、2度と経験のできないような体験をさせていただいたと、このように思ってお
ります。そして、当初の目的がですね、今日こう無事に達成できたということで、
充実感でいっぱいでございます。この合併協議に当たりましてはですね、ここにお
集まりの皆さんを始めですね、関係された多くの方々ですね、ご尽力によってで
すね、ここまで漕ぎ付けられたのではないかとこのように思っておりますし、そん
なことも含めましてですね、感謝とお礼の言葉を申し上げます、^{はなは}甚だ簡
単ですけれども、感想を述べさせていただきたいと思います。本当にどうもご苦労
様でございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

それでは、遠藤副会長、お願いします。

副会長（遠藤清一） それでは、一言お礼を申し上げたいというふうに思います。

2年余り、22回に渡る協議も今日が最後ということになった訳でありますけれど
も、各委員さん始め、合併事務局の職員の皆さん、そして両町村の職員の皆さん
のご労力に対して、心からお礼を申し上げたいというふうに思います。

この協議を通じまして特に申し上げたいのは、実は先ほどお話にもございました
ように、編入合併ということで協議を進めてきた訳でありますけれども、特に幕別
の委員さんにおかれましては、対等な立場で協議をしていただいた。そしてこの地
域の為に色々なことを譲っていただいて協議をしていただきました。本当に心を打
たれました。感謝申し上げたいというふうに思います。

また、私ごとでございますけれども、過日17日の臨時議会におきまして、地域担
当助役ということで選任に同意をいただきました。岡田町長を始め議員の皆さん、
そして多くの町民の方々に心からお礼を申し上げたいなというふうに思いますし、
今後におきましては、この忠類地域と本町との官のパイプ役として一生懸命与えら
れた期間を汗を流して行きたいというふうに思っております。

申し上げますことはたくさんございますけれども、心から皆さんにお礼を申し上げ
まして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

議長（岡田和夫） ありがとうございます。

[閉会]

議長（岡田和夫） 最後になりますけれども、私から一言、ご挨拶をさせていただきます

たいというふうに思います。

本日をもちまして幕別町・忠類村合併協議会での協議が終了致します。平成16年の1月23日に第1回の協議会が開かれましてから、ちょうど2年間の長きに渡り、委員の皆様、大変お忙しい中、ご出席をいただき、そして、それぞれの町や村を思う熱心なご協議の結果、晴れて合併が成就致しましたことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

いよいよ2月6日には、新「幕別町」が誕生致しますが、先ほどらいお話がありますように、合併はゴールではなくて、新しいまちづくりのためのスタートであります。これまで先人の方々が苦勞して築かれてきた幕別、忠類それぞれの歴史や文化を忘れることなく、新しい一つのまちとして、発展し、繁栄し、住民の方に「合併して良かったな」と言っていたいただけるようなまちづくりに、精一杯努力を続けて参りたいというふうに思っております。

最後になりますけれども、会長の職をおおせつかり、本日まで無事協議を終えることができましたのも、ひとえに委員の皆様方のご理解とご協力の賜^{たまもの}であります。本日まで大変長い間、本当にありがとうございました。

以上をもちまして、第22回幕別町・忠類村合併協議会を閉会致します。

ありがとうございました。

17:00 閉会

議事の経過は協議会事務局で作成したものであるが、内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

平成18年1月31日

議長（会長）

岡田和夫

署名委員

邊見敏夫

署名委員

杉坂達男